

# よりよい社会をつくろうとする子供の育成

～自分と社会とのつながりを実感し、進んでかかわろうとする授業の工夫～

日 時 平成27年9月18日（金）第6校時

14:25～15:10

対 象 第6学年3組 36名

学校名 世田谷区立経堂小学校

授業者 教諭 桑島 孝博

会 場 3階 6年3組教室

## 1 小单元名 「新しい時代の幕開け」(全8時間)

## 2 小单元の目標と観点別評価規準

### (1) 小单元の目標

ペリーの来航と開国、明治維新、文明開化などについて調べ、明治新政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れて日本の近代化をすすめたことを理解するとともに、明治新政府が目指した日本の姿やそれに関わった人々の願いを考えられるようにする。

### (2) 観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程のどこで
社会的事象への 関心・意欲・態度	①江戸末期と明治初期の日本橋の様子の変化に関心をもち、日本の近代化の様子を意欲的に調べようとしている。 ②殖産興業に関わった人々の思いに関心をもち、明治の国づくりに国民がどのように関わっていたか考えようとしている。	つかむ ふかめる
社会的な 思考・判断・表現	①開国から、近代国家を目指した日本の急激な変化について、学習問題や予想、学習計画を考えている。 ②明治政府の諸改革、文明開化やそれに関わった人々の願いや思いについて考え、表現している。	つかむ まとめる
観察・資料活用の 技能	①黒船来航、明治維新と諸改革、文明開化などについて、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集め、調べている。	調べる
社会的事象について の知識・理解	①黒船来航により日本が開国し、これをきっかけにして江戸幕府が不平等な条約を結んだことを理解している。 ②明治政府が、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を積極的に取り入れながら近代化を進めたことを理解している。	つかむ 調べる

### 3 小单元について

本小单元では、学習指導要領第6学年の内容(1)のキを受けて設定されている。幕末から明治の初めにかけての黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、明治政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいにしている。幕末から明治の初めはペリーが率いる黒船の来航をきっかけに260年間続いた鎖国が終わり、我が国の政治の仕組みや人々の生活が短期間に急激に変化した時代である。この時代に新たな国づくりを目指した大久保利通、木戸孝允、西郷隆盛、福沢諭吉などの人物の業績や思いを調べる活動を通して、明治時代の近代化に向けた人々の願いについて考えられるようにする。また、ふかめる学習過程において、富岡製糸場で働く工女の姿を取り上げることで、明治の国づくりは、政治に関わった一部の人物だけでなく、国民も貢献していたことに気付かせたい。国民が国の発展に重要な役割を担っていたと考える視点は、次の小单元の学習に生かしていきたい。

### 4 児童の実態

社会科の学習では、学習問題をつくり、追究していく問題解決的な学習を繰り返し行ってきた。問題解決的な学習過程を、児童は概ね意識出来ている。歴史学習に関心を持つ児童も見られ、自ら資料を探したり、歴史に関係する本を読んだりしている。しかし、歴史的事象がどのような意味をもっているか、その時代ごとの人物はどのような思いや願いをもっていたか考えようとする児童は少ない。そこで、本小单元においては江戸時代の終わりから明治時代前半の20年という短い期間に、日本を近代化させようとした人々がどのような思いをもっていたか考えながら学習することで、歴史的事象の意味について考えられるようにしたい。

社会科の学習に限らず、考えを伝え合いながら学習することの大切さについて伝えてきているが、自分から発言する児童が一部に偏ってしまう傾向がある。意図的に指名をして発表する機会を設けたり、少人数のグループ活動などを取り入れたりして、自分の意見を伝える力や友達の考えを参考にしながらよりよい考えをもつ力を育てたい。また、考えを発表する際、必ず根拠を示すように繰り返し指導しているが、全ての児童に定着はしていない。根拠を示しながら考えを伝え合い、論理的に考えることの出来る児童を増やしていきたい。資料を活用する力には個人差があり、資料からの確に情報を読み取れる児童とそうではない児童の差が見られる。そこで、必要な情報を資料から読み取り、ノートにまとめる活動も様々な時間に取り入れている。

### 5 学年の研究主題との関連

#### (1) 社会認識を深め、参画意識を培う教材の開発

##### ① 江戸時代末期における日本の課題をとらえられる教材

本小单元では、つかむ段階で欧米諸国がアジアの国々に進出している様子を資料として取り上げる。そのような状況の中、外国から開国を迫られたことを、当時の日本人がどのように考えていたか捉えさせる。その上で、日本が開国し、不平等な条約を結んだことについて調べることで、当時の日本の課題に切実感をもたせる。

##### ② 明治の新しい国づくりに努力する人々の姿が見える教材 (「調べる」: 第4、5、6時「深める」: 第8時)

調べる段階では、明治の国づくりに努力する西郷隆盛、木戸孝允、大久保利通、福沢諭吉といった人物を教材として取り上げる。そして、明治の国づくりに向けて努力する人々の業績や、思いについて考えることのできる資料を提示する。

また、深める段階では、富岡製糸場で働いた工女「和田英」がどのような思いをもっていたか考える活動を取り入れる。工女の手記を資料として提示し、働く人々の思いについても考えさせる。富岡製糸場で働いた工女の姿から、明治の国づくりは歴史上に名を残した人物だけでなく、国民一人一人も貢献していたことに気付かせる。

(2) 社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫

① 単元を貫く学習問題の設定 (「つかむ」: 第1、2、3時)

つかむ段階の初めに、江戸時代末期の日本橋の様子と、明治時代初期の日本橋の様子を比較させ、20年間という短い期間に日本の様子が大きく変化していることに疑問をもたせる。この時点では、児童は国民の生活の変化に対する疑問を感じやすいが、政治的な面に対する疑問をもつことは難しい。そこで、江戸時代末期に、ペリーが来航し日本が開国したことや、大政奉還が行われ武士による政治が終わったこと等の事実を児童に示す。このような事実を知ることによって、児童は、江戸幕府が倒れた後の明治の国づくりがどのように行われたのかという点に疑問をもつことができる。この疑問を基に単元を貫く学習問題を設定し、明治の国づくりについて追究していく。学習問題を設定するまでの事実認識に時間をかけることで、学習問題に対して予想する際、既習の内容を生かして考えることができる。

② 社会認識を深める学び合いの活動

「ふかめる」の場面では、「和田英はどのような思いで働いていたのだろうか」という問いについて考える。この問いに対する考えを工女の手記(富岡日記)を基に、一人一人が考える場面を設定する。この考えを友だちと話し合うことで、紡績技術をいち早く身に付け、自分のふるさとで絹産業を発展させようと懸命に努力する工女の思いに気付くことができる。こういった考えをもって努力した国民が、他にもいたことを、殖産興業の全国地図や富岡製糸場で働いた工女の人数から理解できるようにする。「ふかめる」場面の終末に、明治の国づくりに貢献した人は誰なのか、再考させ、明治の国づくりは一部の政治に関わった人物の力だけではなく、国民の努力による影響の大きさも考えさせる。

(3) 社会認識の深まりや社会参画への思いを見取る評価の工夫

① まとめる段階、ふかめる段階での評価規準と手だて

本小単元で目指す児童像の育成のために、「まとめる」「ふかめる」段階において、次のように評価規準とつまずきに対する手立てをそれぞれ考えた。

	まとめる段階	ふかめる段階
評価規準	明治政府の諸改革、文明開化やそれに関わった人々の思いや願いについて考え、表現している。	殖産興業に関わった人々の思いに関心を持ち、明治の国づくりに国民がどのように関わっていたか考えようとしている。
評価規準を達成した児童の姿(例)	大久保利通や木戸孝允、福沢諭吉といった明治の国づくりに関わった人々は、近代化された新しい日本を目指し、西洋の文化を取り入れたり、新しい政治のしくみをつくったり、産業や文化を発展させたりして、国づくりを行なった。	明治時代の国づくりには、歴史上に名前を残した大久保利通や木戸孝允、福沢諭吉といった人物が大きく貢献しているが、そういった人々だけではなく、国民の中にも、一生懸命に産業を発展させようと努力した人々がいたから、国は発展した。
つまずきに対する手だて	明治の新たな国づくりについてキーワードを考えることができない。→大久保利通、木戸孝允、福沢諭吉が何を手本にしていたか考えさせる。	国民一人一人の努力した姿に価値を見出せない。→工女の思いについて考えさせる。意図的に指名した友達と考えを話し合わせる。

② ホワイトボードを活用した話し合い

グループでの話し合いは3人～4人の少人数のグループで行い、内容をホワイトボードに書かせる。話し合いの内容を視覚化することで、児童は話し合っている内容が整理され、話し合いの質が高まる。また教師は、話し合いの流れや話し合った内容が把握しやすくなり、授業時間の指導に生かしたり、その後の評価に生かしたりすることができる。ホワイトボードの書かせ方はキーワードにまとめる方法やイメージマップのような図にまとめる方法を、話し合いの内容に合わせて工夫する。

学習指導要領

学習指導要領「内容」との関連

(3) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。  
 キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること

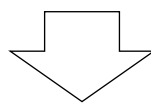
中心概念

明治時代の人々は、西洋の文化を取り入れながら、新しい政治のしくみをつくったり、産業や文化を発展させたりしながら、国づくりを行なった。

具体的知識



用語等



育てたい子供の姿

明治時代の国づくりに関わった人々の業績を調べたり、思いを考えたりすることを通して、日本の近代化や人々の生活の変化を理解するとともに、明治時代の国づくりへの関心を高められる子供

7 小単元の指導計画 (8 時間扱い)

学習過程	◇ねらい	○学習活動 ・期待する児童の反応	□教材の工夫 ○指導の工夫 ◆評価【観点】
つかむ①	◇江戸末期と明治初期の日本橋の様子を比較し、変化に関心をもつ。	○江戸時代の日本橋の絵と明治時代の日本橋の絵を比べ、気付いたことを話し合う。 ・日本は短い期間に、西洋風の国に変化している。 ○「明治天皇の江戸城に入場」の資料を見て気付いたことを話し合う。 ○年表で江戸時代末期から明治時代の初めについて何が起きたか概観する。 ○学習感想を書く。 ・なぜ江戸幕府は滅びたのだろうか。また短期間に日本が西洋風になったのはなぜだろう。	□日本橋の絵図 (江戸時代末期) □日本橋の絵図 (明治時代初期) □鳥居清張駿河町越後屋正月風景図 □テープ図 ○江戸時代の期間と国の様子が変わった期間の長さをテープ図で示すことで、20年間という長さの短さに気付かせる。 ○為政者が変わる場合にはどのようなことが起きてきたか想起させる。 □年表 ◆【関・意・態①】(発言・ノート)
つかむ②	◇黒船来航により日本が開国し、これをきっかけにして江戸幕府が不平等な条約を結んだことを理解する。	○黒船来航時の様子を知り、ペリーをはじめ西欧諸国に対して人々がどのような思いをもっていたか話し合う。 ○ペリーの来航の目的やペリー来航のころの世界の様子について調べる。 ・日本も植民地になるのではないかと、危機感を感じたのではないかと。 ○ペリーの来航以来どのような条約を結んだか調べる。 ・日米和親条約で下田と函館を開港した。 ・200年以上続いた鎖国が終わった。 ○大政奉還の原因について調べる。 ○学習感想を書く。 ・江戸幕府が滅びた後、日本はようになっていくのだろうか。	□黒船の絵 □黒船の大きさと当時の日本船の大きさの比較 (約20倍) □日本人の描いたペリーの肖像画 (数種類) □ペリーの航路 □来航の目的 □ペリー来航のころの世界の様子  □日米和親条約、日米通商交渉条約についての文章資料 ○不平等条約はしばらくの間続くことをおさえる。  ◆【知・理①】(ノート)
つかむ③	◇明治の新しい国づくりについて調べる学習問題をつくり、学習問題について予想し、学習計画を考える。	○これまでに学習したことから、疑問に思ったことなどを出し合い、学習問題をつくる。 ・だれが日本をまとめていくのだろうか。 ・どうやって西洋風にしていくのだろうか。 ・どうやって国を発展させていくのか。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">明治の日本をだれがどのようにしてつくったのだろうか。</div> ○学習問題に対して予想したことを話し合う。 ・外国の文化を取り入れて国をつくった。 ○学習計画をたてる。	□大政奉還の絵図 □日本橋の絵図 (江戸時代末期) □日本橋の絵図 (明治時代初期) □前時までのノート  ◆【思・判・表①】(ノート)
調べる①	◇明治政府が、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、明治の国づくりを進めたことを理解する。	○西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允たち明治政府が、どのような政策を行なったか調べる。 ・五箇条の御誓文が出された。 ・廃藩置県、四民平等が行われた。 ○明治政府がどのような国づくりを目指したか考え、話し合う。 ・明治天皇を中心として、新しい国づくりを目指した。	□五箇条の御誓文の一部 □廃藩置県、四民平等についての文章資料 (教科書、資料集)。  ◆【知・理②】(ノート)

調べる②	◇大久保利通が行った明治の諸改革について、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集め、調べる。	○大久保利通がどのようにして富国強兵を行ったか調べる。 ・大久保たち政府は外国を手本にして殖産興業を發展させた。 ・大久保たち政府は国を豊かにするために地租改正を行った。 ・大久保たち政府は強い軍隊をつくるために徴兵令を出した。 ○大久保利通の思いについて考え、話し合う。 ・大久保利通は外国に負けない強くて豊かな明治の世をつくりたいと考えた。	□大久保利通の肖像画 □大久保利通についての映像資料 ○大久保利通の行ったことや思いを通して、明治の国づくりについて考えさせる。  ◆【観・技①】(ノート)
調べる③	◇福沢諭吉の業績や思いについて、地図や年表、その他の資料を活用して必要な情報を集め、調べる。	○学制制度がつくられ、学校に通う子供の割合が急激に増えていったことについて調べる。 ・全国にたくさんの学校がつけられた。 ○福沢諭吉が外国の新たな考えや、学問の大切さ広めたことについて調べる。 ・学問のすすめを書いた。 ・西洋事情を出版した。 ○福沢諭吉の思いについて考え、話し合う。 ・福沢諭吉は国を發展させるためには、国民一人一人が学問で知識を身に付けることが重要だと考えていたと思う。	□学校に通った人数の推移  □福沢諭吉の肖像画 □福沢諭吉についての映像資料 ○福沢諭吉の行ったことや思いを通して、明治の国づくりについて考えさせる。  ◆【観・技①】(ノート)
まとめる①	◇明治政府の諸改革、文明開化やそれに関わった人々の思いや願いについて考え、表現する。	○学習問題を振り返り、考えをまとめる。 ○学習問題に対する考えを話し合う。 ・西洋の文化を取り入れながら国づくりを行った。なぜなら、大久保利通も福沢諭吉も西洋を手本にしていたからだ。 ○学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ・大久保利通、木戸孝充、福沢諭吉など明治時代の人々は、西洋の文化を取り入れながら、新しい政治のしくみをつくったり、産業や文化を發展させたりしながら、国づくりを行なった。	□これまで学習したノート  ○ホワイトボードを活用して、グループで学習問題に対する考えをまとめさせる。 ○グループでまとめた考えを学級で話し合い、学級の考えをまとめる。  ◆【思・判・表②】(ノート)
ふかめる①	◇殖産興業に関わった人々の思いに関心を持ち、明治の国づくりに国民がどのように関わっていたか考える。	○明治の国づくりに貢献した人物を振り返る。 ○富岡製糸場の工女であった和田英について調べ、本時の学習課題をつかむ。 ○和田英の手記を読み、和田英がどのような思いで働いていたか調べる。 ・自らの技術を高め、長野に戻って絹産業を發展させようと頑張ろうと思っていた。 ○富岡製糸場で働いた工女の人数、殖産興業としてつくられた工場の分布について調べる。 ○明治の国づくりに貢献した人物を振り返り、考え文章にまとめる。 ・明治時代の国づくりには、歴史上に名前を残した人物だけでなく、国民の中にも、一生懸命に産業を發展させようと努力した人がいたから、国は發展した。	□大久保、西郷、木戸の肖像画  □和田英の肖像画□富岡製糸場の絵 □工女の年齢、出身地 □和田英の手記  □富岡製糸場の工女の人数 □殖産興業としてつくられた工場の分布図  ◆【関意態②】(ノート)

8 本時案 (8時間扱い3時間目)

(1) ねらい

- ・明治の新しい国づくりについて調べる学習問題をつくとともに、学習問題について予想し、学習計画を考えることができる。

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される児童の反応</li> </ul>	<p>※資料 ◆指導上の留意点</p> <p>◇評価規準</p>
<p>○前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペリーが日本に来て、江戸幕府の鎖国が終わった。不平等な条約を結んだ。</li> <li>そして幕府を倒そうという武士の動きもあり、江戸幕府は倒れた。</li> </ul> <p>○本時のめあてを確認し、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は学習問題をつくる時間だ。</li> </ul>	<p>◆前時のノートをもとに、考えたことを発表させる。</p> <p>※ペリーの肖像画</p> <p>※大政奉還の絵図</p>
<p>学習問題をつくり、予想と調べる計画をたてよう。</p>	
<p>○江戸幕府が滅びた後の日本について、疑問に思うことをノートに書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸幕府の後、誰が国をまとめていくのか。</li> <li>・なぜ、江戸幕府が滅んだ後は洋風な世の中なのか。</li> </ul> <p>○疑問を出し合い、学習問題をつくる。</p>	<p>※明治の日本橋の様子</p>
<p>明治の日本をだれがどのようにしてつくったのだろうか。</p>	
<p>○学習問題に対する予想を考え、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の文化を取り入れながら、国を発展させていったのではないか。</li> </ul>	<p>◆児童からの疑問を観点に分けて板書する。</p> <p>※学習してきたノート</p> <p>※年表</p> <p>◆既習の内容を根拠にして考えさせる。</p> <p>◆これまでの歴史学習を振り返り、国づくりを行うときにどうしていたか想起させる。</p>
<p>○学習問題に対する予想を話し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の文化を取り入れて、日本を変えていった。</li> <li>・きまりや政策を新しくしていった。</li> </ul>	<p>◆予想を話し合う際、ホワイトボードを活用してキーワードでまとめるよう声を掛ける。</p> <p>◇開国から、近代国家を目指した日本の急激な変化について、学習問題や予想、学習計画を考えている。【思・判・意①】(ノート)</p>

8 本時案 (8時間扱い8時間目)

(1) ねらい

- ・殖産興業に関わった人々の思いに関心をもち、明治の国づくりに国民がどのように関わっていたか考えることができる。

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される児童の反応</li> </ul>	<p>※資料 ◆指導上の留意点</p> <p>◇評価規準</p>
<p>○前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題に対する考えをまとめた。明治の国づくりには、西郷隆盛、木戸孝允、大久保利通、福沢諭吉といった人が関わった。</li> </ul> <p>○和田英の概要について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和田英は富岡製糸場で働き、15歳で長野から働きに出た。</li> </ul>	<p>◆前時のノートをもとに、考えたことを発表させる。</p> <p>※西郷隆盛、木戸孝允、大久保利通、福沢諭吉の肖像画</p> <p>※和田英の肖像画</p> <p>※和田英の仕事、出身地、年齢</p>
<p>和田英はどのような思いで、富岡製糸場で働いていたのだろうか。</p>	
<p>○和田英の思いについて予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国のためには、我慢して働こう。</li> <li>・本当は働きに出たくないが、仕方がない。</li> </ul> <p>○和田英の「富岡日記」について調べ、和田英の思いを吹き出しに書く。</p> <p>○和田英の思いについて班で話し合い、ホワイトボードに考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術を一生懸命高めて、自分の故郷に帰ったときに技術を伝えられるようにがんばろう。</li> </ul> <p>○明治時代の生糸生産量や殖産興業の分布について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡製糸場だけでなく、全国に官営工場がつくられている。</li> </ul>	<p>※富岡日記（一部）の文章資料</p> <p>※和田英の吹き出し</p> <p>◆ホワイトボードを活用して考えを話し合わせる。</p> <p>※富岡製糸場の工女の人数</p> <p>※製糸生産量の推移</p> <p>※官営工場の分布図</p>
<p>○小単元を通して、明治時代の国づくりに関わった人について考えたことを学習感想に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治時代の国づくりには、歴史上に名前を残した人物だけでなく、国民の中にも、一生懸命に産業を発展させようと努力した人がいたから、国は発展した。</li> </ul>	<p>◇殖産興業に関わった人々の思いに関心をもち、明治の国づくりに国民がどのように関わっていたか考えようとしている。【関・意・態②】(ノート)</p>



8 板書計画

